

eco サポート

(公財)山口県ひとづくり財団

環境学習推進センター情報誌 第41号

- 01 第2回環境学習講演会レポート
第14回人づくり・地域づくりフォーラム in山口
- 02 環境活動団体等交流会レポート
環境学習講座のお知らせ
- 03 環境学習指導者活動紹介
環境学習指導者バンク紹介
- 04 樺野川河口干潟再生生活動2019の参加者募集
環境活動団体支援事業の募集案内

平成30年度 第2回環境学習講演会を開催しました！

1月20日、暮らしや家事の専門家としてテレビなどで活躍されている環境アドバイザーの和田由貴さんをお招きして、「今日から実践 暮らし快適節約エコライフ」と題して、今年度2回目の環境学習講演会を開催しました。

和田講師は、「節約は、無理をしないで楽しく！」がモットーで、耐える節約でなく快適と節約を両立したスマートで賢い節約生活を提唱しておられ、「環境」の視点から、科学的根拠に基づく、様々な省エネ手法について、分かりやすく解説されました。

「節約」は、「せこい」や「無理・我慢」など、マイナス方向でつらいものと思われがちだが、本来は、暮らしと心を豊かにすることを目的に行うもの。節約がダイエットと同様、自分にあった方法を見つけて、ストレスが溜まらないように、自分のできる範囲で継続していくことが重要と説明されました。

講演で解説された省エネ手法の一部を紹介します。

まず、節電では、従来は無駄な照明を消したり、空調の温度設定など、ソフト面の省エネが強調されていたが、省エネタイプの電気製品への買い換えなど、ハード面の見直しとの両面から取り組む必要がある。電気製品の買い換えは、「まだ使えるのに捨てるのはもったいない」との考えもあるが、リサイクル技術も進み、旧型の家電の使用により無駄な電気を使い続ける方がもったいないこと。

冷蔵庫は特に省エネ性能が進んでおり、買い換えによる節電効果が大きく、エアコンは、設定温度と室温との差が大きいほど多くの電力を必要とするため、扇風機等との併用により、体感温度を下げることは効果的で、機種にもよるが、ドライ機能は、冷房より電力を多く必要とすること。

ガス・水道の節約では、家庭で使用するエネルギーの約1/3は給湯にかかるもので、お湯と水のコスト差は3倍であり、水で可能なものは、お湯でなく水を使用すべき。シャワーは多くの湯を使用しており、シャワー15分で浴槽1杯分の湯量を使用している状況。

食費の節約では、食品は安い物を買うのではなく、使い切っただけから買い足す方式とすべきで、乾物や缶詰など保存期間が長いものが、期限切れとなることが多いこと。

国内の食品廃棄物は年間1700万トンで、米の年間収穫量とほぼ同等であり、「消費期限」と「賞味期限」の違いを理解して、食品ロスの減量に取り組む必要があること。

日本人はきれい好きが多いためか、容器包装された食品の割合が海外に比べて高く、家庭ごみに占める容器包装の割合は容積比率で54.7%もある。消費者からも過剰な包装の削減を製造者に働きかけるべきであること等。

身近なテーマで、多くの方に参加いただき、和田講師の紹介された「省エネ・節約術」は、参加者の今後の取組に役立つ有意義な講演会でした。



第14回 人づくり・地域づくりフォーラム in 山口

2月16日・17日、全国の先進的な実践事例、研究成果の発表や情報交換等を通じて、新しい時代の人づくり、地域づくりのあり方を学ぶ総合的フォーラムが開催されました。福祉・健康や防災・減災等6つの部会のうち、環境保全部会の概要を報告します。

本県からは、山口県自然環境指導員協議会の大田会長さんが「みどりの風を絶やさないように」と題して、90名の会員が、県内各地域で開催する自然観察会等を通じて、自然環境保全と生物多様性の普及啓発に取り組んでいる状況を紹介されました。

協議会の6つの支部では、ツルのねぐら整備から、クサブグの産卵調査、カタクリやエヒメアヤメ、ヒゼンマユミ、ホンシャクナゲ等の保全活動、野鳥やカタツムリ、カスミサンショウウオの観察会など、県内全域でさまざまな取組が行われています。

環境保全部会には、県内外から70名近くの参加がありましたが、全国各地の取組を聞いた上で、活発な意見交換が行われました。各団体ともコアとなる活動者の高齢化や、活動資金の確保が課題となっており、若い会員の勧誘や行政に頼らない継続した活動を模索されており、県内の活動団体の参考となる発表会でした。

平成30年度環境活動団体等交流会を開催しました！

開催日 2月3日(日) 13:30～16:00

場 所 山口県セミナーパーク 研修室

県内で、環境活動に取り組んでいる団体等が、活動状況や課題等について情報を共有し、課題解決に向け意見交換を行うことで、活動を一層推進することを趣旨とした環境活動団体等交流会を開催しました。

まず、活動団体など4名の方に取組事例を発表していただき、これを踏まえた意見交換を行いました。

事例発表では、山口県東部海域にエコツーリズムを推進する会 会長藤本正明氏から、「山口県東部の環境を守る取組について～アワサンゴの調査・保護とエコツーリズムの推進～」と題して、日々の地道な潜水観察からアワサンゴの大群生地が発見された経緯や新たにわかった生態、保護活動等の極めて貴重な取組等についての発表がありました。

次に、山口県環境アドバイザーの村本禎子氏から、「自然に親しんで学ぶ環境保全」と題して、干潟観察や植物観察を通して、地域の子もたちに自然と向き合わせる中で、喜び、驚き、感動といった情意的な成長を大切にした環境学習講座のあり方についての提言がなされました。

さらに、豊田ホタルの里ミュージアム館長の増野和幸氏から、「ホタル・自然・人がつながる環境教育」と題して、生態展示を含む興味深く個性的な施設案内、企画展・テーマ展、出前講座、観察会、科学・工作教室、講演会、小学生によるホタルの飼育活動等の取組の紹介がありました。

また、環境学習推進センターから、E S Dの視点に立った環境学習の推進に向けた当センターの支援制度等について説明しました。

最後に、事前のアンケート結果を基にした三つの重点課題（連携・協働、活動資金・資材等の支援、人材育成）にどう取り組んでいけばよいのか、意見交換を行いました。どの団体も活動の継続に苦労しておられ、ゆくゆくは行政に頼らない体制を構築し、若い人がこれで生計を立てていけるようにしなければいけない等の貴重な意見が出されました。

環境学習関係者の皆さんが一同に会して、情報を共有し、意見交換を行うことで、活動を一層推進するきっかけづくりとなる有意義な会でした。



環境学習講座のお知らせ

・こども環境学習講座・

**つのしまの
海辺の生き物と
自然環境**

4月8日(月)締切

4月21日(日) 10:00～15:30

参加対象： 県内の小学生とその保護者 30人程度

参加費： 無料(弁当、飲み物は各自持参)

場 所： つのしま自然館、大浜海岸など(下関市豊北町角島)

内 容： ○ 講義「つのしまの海辺の生き物と自然環境」
講師： 杉村 智幸 先生

○ つのしま自然館見学

○ 採取した貝などの標本づくり

**つのしま自然館に
自家用車で
集合してください**

今後の予定

詳細が決まり次第、ホームページ「環境学習のひろば」に掲載するとともに、毎月お届けしていますメールマガジンやフェイスブックでお知らせしています。

秋吉台の植物観察(秋の草花観察)

開催日 5月12日(日)

場 所 秋吉台青少年自然の家(美祿市)

内 容 秋吉台に自生する植物(春の草花)の観察

親と子の水辺の教室～木崎川～

開催日 6月9日(日)

場 所 県健康づくりセンター・木崎川(山口市)

内 容 水生生物の観察

持続可能な地域づくり研修会

開催日 6月16日(日)

場 所 山口県セミナーパーク 大研修室

内 容 持続可能な地域づくり研修会
～生ごみ活用 元気な野菜作り～

一緒に学ぼう！再生可能エネルギーの現状

開催日 7月4日(木)

場 所 山口県セミナーパーク 研修室 他

内 容 山口県における再生可能エネルギーの現状

環境学習指導者の活動紹介



手づくり
紙芝居

山口県セミナーパーク1階ロビーの環境学習コーナーにて、環境学習指導者の方々の日頃の取組を紹介しました。

子どもから大人まで楽しめるエコ工作や、実際に人が中に入れるほどの巨大秘密基地、取組をパネルにまとめた展示などに、多くの来所者が足を止めていました。

ケナフの
紙すき



使われなかったかまぼこ板を再利用した
かまぼこ板の秘密基地

取組の
パネル紹介



山口県環境学習指導者バンクのご案内

県民の皆様への「環境の保全」についての理解を深め、地域における取組を促進するため、県内各地で行われる講演会や体験学習などに、環境学習指導者を派遣します。

講師派遣の流れ

バンク利用者



派遣申請

環境学習推進センター



派遣要請

環境学習指導者

講演会、体験学習会等の主催者・代表者は、開催日の30日前までに、派遣申請書に必要事項を記入の上、環境学習推進センターに申請してください。

バンク利用者から提出された申請書を審査し、講師派遣の可否を申請者に通知します。

講師派遣費用はセンターが負担

環境学習指導者が、環境学習会等に派遣されます。

環境
アドバイザー

環境
パートナー

こどもエコクラブ
アドバイザー

詳細は、環境学習推進センターにお問い合わせいただくか、ホームページ「環境学習のひろば」をご覧ください。

榎野川河口干潟再生活動2019の参加者募集

～やまぐち森・里・川・海自然再生プロジェクト～



4月20日(土)
12:30～15:30



榎野川の恵みを味わう試食会
干潟耕耘
あさり再生活動
潮干狩り
生き物観察会

榎野川河口干潟等では、産学官民の連携により「里海」の再生を目指した取組が進められており、今年も春の干潟再生活動が実施されます。

干潟耕耘作業の他、潮干狩り、生き物観察会など、大人も子どもも干潟を満喫できるイベントです。イベントの詳細や申し込み方法は、山口県自然保護課のホームページをご覧ください。

- 場 所：** 山口市秋穂二島437(旧山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所)、南潟
主 催： 榎野川流域連携促進協議会、山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所
協 賛： あいおいニッセイ同和損害保険(株)山口支店
協 力： あいおいニッセイ同和山口支店プロ会、(株)伊藤園山口支店、積水ハウス(株)山口工場、水産大学校、山口大学、山口県立大学、榎野川河口域・干潟自然再生協議会

**試食会・作業説明の後、
各自の車で干潟に移動します**

お問い合わせ先

山口県 環境生活部 自然保護課

TEL : 083-933-3060 MAIL : a15600@pref.yamaguchi.lg.jp

県自然保護課HP



環境活動団体支援事業の募集案内

環境活動団体が実施する自然環境保全等の活動を通じて、子どもたちや地域住民などが、自然の素晴らしさや大切さを実感し、自然共生型の地域づくりを推進するとともに、環境に配慮した行動がとれる子どもたちや県民を育成することを目的として、団体の事業に必要な経費の一部を助成します。

助成対象となる団体

- (1) 県内に活動拠点を有し、かつ県内で活動していること。
- (2) 組織の運営に関する規定を有していること。
- (3) 活動歴が1年以上であること。ただし、任意団体が法人化した場合は、法人化前の活動期間を含む。
- (4) 政治的、宗教的及び商業的宣伝活動を行っていないこと。

助成対象となる事業

次のいずれかに掲げるものであって、特定のフィールドで将来にわたり継続的に行われるものを対象とします。

子ども(高校生以下)の参加者が原則として5名以上であり、年間2回以上の実践活動(環境学習を含む)を行うものとします。

- (1) 野生動植物の保全等
- (2) 自然環境の保全・再生
- (3) 自然とのふれあい事業



○詳細はホームページ等をご覧ください。
※助成事業に応募する団体は、5月14日(火)までに申請書を環境学習推進センターに提出してください。

発行元

(公財)山口県ひとづくり財団 県民学習部 環境学習推進センター

〒754-0893 山口市秋穂二島1062(山口県セミナーパーク内)

TEL 083-987-1110 FAX 083-987-1720

E-mail kankyo.c@hito21.jp URL <http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/learning/index.php>



yamaguchi.hito.
kankyogakusyu



**環境学習推進センター
ホームページ
「環境学習のひろば」**